

手をつないで抗議のコールをする「女の平和」の参加者＝20日、国会正門前



日本共産党北区議会議員

さがらとしこ

区政レポート

日本共産党議員団

2015.6.25. No. 1323.

ご相談はお気軽に

TEL とも 3905-0970

FAX

さがらとしこ事務所

赤羽北3-23-17

(バス停「赤羽北3丁目」, メガシティ近く)



戦争法案に
レッドカード

響き渡る声

全国で行動・国会前には女性1万5千人



安倍内閣の支持率は、45%から39%に。
女性も、42%から34%に大きく落ちこんだ。
朝日新聞が6/20、21の両日おこなった全国世論調査(電話)結果の



シールズ (自由と民主主義のために学生たち)

6月24日(水)JR王子駅前
本会議1日目の代表傍聴の
あと、区議団として宣伝署名

看護師を戦場に送らない

「戦争法案」

今言わなければ

私は日本赤十字社中央病院で20年間看護師として働き、その後44年は看護教育に携わってきました。

戦火に消えた命

125年の日本の看護の歴史のうち、日清戦争(1894年)から敗戦(1945年)までの50年間は戦争でした。日赤の看護師養成は戦場で傷病人を救護することを目

日本赤十字看護大学名誉教授 **川嶋みどり** さん



かわしま・みどり 1931年京城(現・ソウル)生まれ。健和会臨床看護学研究所所長、日赤看護学研究所所長、日本赤十字看護大学名誉教授。著書『キラリ看護』(医学書院)、『看護の力』(岩波新書)など。

的に始まったので、女性看護師にも召集令状がきて、戦場に派遣されていきました。非戦闘員であるのに戦火のなかで亡く

なった日赤の殉職者の8割(1165人)が看護師でした。戦場では、包帯や消毒液なども足りないため、重傷を負った人はおろか、簡単な治療にもこと欠き、兵士の多くが感染症や栄養失調で命を落としました。看護師にとっ

て、目の前に傷病人がいかに救うことができないうことばっかりいことはありません。従軍看護婦として3度、戦場に行っただ花田ミキさん(享年91歳)は遺言で「人と人がこころし合う戦争のおろかさ」とむなしさを骨の髄まで知っています」と書き、

6/22付 赤旗

「戦争をしないために、巻き込まれないために盾として、平和憲法の第9条を守ってくださるよう」に心からいのります」と訴えています。

安倍首相をはじめ、戦争法案に賛成している政治家は、戦争がどんなものか、どれだけ国民の血が流れるか、想像力の欠けた人たちです。歴史の真実に学び二度と戦争をおこしてはいけません。看護師を再び戦場に送らないことが今を生きる私たちの務めだと思います。

看護と相いれぬ

日赤に入って初めて配属されたのが小児病棟でした。不治の病の子どもをもつ母親が「この子が生きている間に新しい医療技術が開発されて助かるかもしれない」と望みを捨てず、悲しみを抑えて頑張る姿をみてきました。命がありつづける限り、あきらめてはいけません。誰もが人間らしく生き、最後までまっとうで

30億円程度を暮らした援のために活用すべきだと強く求めました。

- ① 国保料や介護保険料の負担軽減
- ② 特養ホームの整備をさらに

※この中、王子6丁目の国有地あとを活用して、特養ホームをつくりたいという計画があり、今、国に要請が出ていることが明らかになりました。

- ③ 介護現場から虐待の掃と

野々山議員の指摘には、昨年11月の朝日報道前に、メールによる通報があったと初めて認めました。

2015年6月 第2回定例区議会

6/25(木)は、個人質問。永井議員と野々山議員。

6/24(水)代表質問には、野々山研区議。

① 憲法違反の安保法制=戦争法案は廃案にすることを、政府に求めること。

② 区民の暮らし応援の区政実現をめぐり

積み立て金、さらに12億円増えて、477億円と史上最高額になったこと、野々山議員は明らかにして、そのうちの

戦後70年 6/23(火) 沖繩戦: 追悼式典での高知、知念捷(あつ)さんの訴えが大きな感動とよんでいます。6/24(水)は、美空ひばりさんの27回忌です……。

一本の鉛筆

作詞 松山善吾三
作曲 佐藤 勝
うた 美空ひばり

一本の鉛筆があれば
私はあなたへの恋を高く
戦争はいやだと私は書く

一本のガラ紙があれば
私は子供が欲しいと書く
一枚のガラ紙があれば
あなたをかえすと私は書く

一本の鉛筆があれば
八月六日の朝と書く
一本の鉛筆があれば
人間のいのちと

私は書く

※41年前の一九七四年八月九日、一回平和音楽祭(広島)で、ひばりさんがうたった歌。その後もう一度、広島で。

「赤旗」
ぜひ、お読み下さい。
日刊: 3497円
日曜版: 823円

戦争は、すべての人から希望や夢を捨てさせ、生きていく権利を強制的に奪い、殺人を合法化します。看護と戦争は相いれません。私は「戦争反対」を信念とし、教え子に伝えてきました。政府が再び同じ道に国民を引きずり込もうとしているいま、「戦争は絶対だめ」と訴え続けていきたい。聞き手・写真 岩間萌子